

## 【学生の振り返り小レポート】

### ◇学生 A

発達に問題を抱えている子供を持つ親は、周りに相談できる人も少なく、孤独に感じている人がとても多いと思います。そんな中で、ネウボラの存在は本当に大きいと感じました。私は将来小学校教員を目指しているため、こういった施設としっかり連携を取れるようにしていきたいです。実際にこのような施設を見学させていただき、現場の方にお話を聞く機会は初めてだったので、たくさんの刺激がありました。

### ◇学生 B

入ってからすぐわかる木をふんだんに使った開放的な空間があったり、全ての階にあるセンターの入り口がドアではなかったところも工夫だと思いました。ドアがしまっていてあるとなかなか入るのに勇気がいるし、壁を感じる人もいます。ノックして入りづらいけど中に人がいっぱいいることがわかり、自分が入ってきても気づきやすいエントランスが各階にあったことがより良い相談場所として成立していると感じました。

### ◇学生 C

誰でも使いやすい場所としてネウボラですが「繋がり途切れない子育て支援」に感化されました。渋谷という大きい行政だからこそできることだとしてしまうのではなく、田舎の方が機関が遠くにあたりバラバラで親も混乱してしまったり、受診するタイミングを逃してしまったりしまうと早期発見に繋がりません。どこにでもある機関として発展していくにはどうしたらいいのか、今後考えていきたいです。

### ◇学生 D

「発達障害＝ネガティブ、良くないこと」といったイメージを払拭してもらい、隠れたり内緒にしたりせず当たり前のように施設を利用できるようにしなければならぬと感じました。今後の課題として「誰でも利用しやすい環境づくり」を掲げていらっしゃいました。「誰でも」ということは、子育て世代だけではなく子どもがいない家庭の人や、地域の高齢者の方など、社会全体として発達障害の理解を深めていくためにも「誰でも」の範囲を広げていくと良いと感じました。